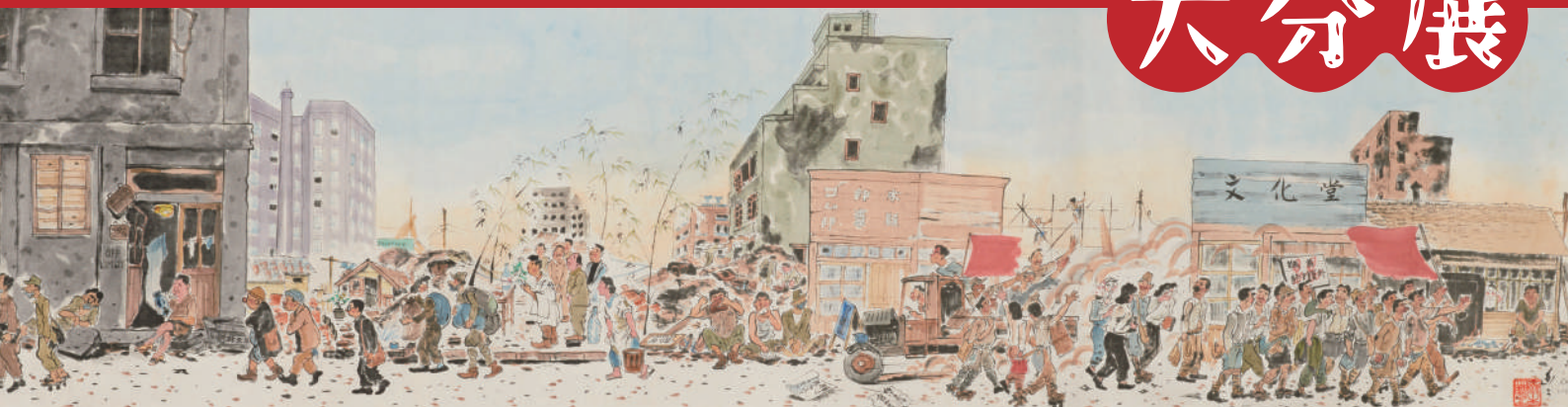


くらしにみる

昭和の時代

大分展



麻生豊「銀座復興絵巻」昭和21年(1946)

令和6年(2024)

6月19日(水)～6月30日(日)

午前10時～午後6時

会場 大分県立美術館 1階 展示室A

所在地 大分県大分市寿町2-1

同時開催 しょうけい館「戦傷病者の労苦を伝える 大分展」/
平和祈念展示資料館「平和祈念展in大分」

後援 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会 大分合同新聞社
西日本新聞社 朝日新聞大分総局 読売新聞西部本社 NHK大分放送局 OBS大分放送
TOSテレビ大分 OAB大分朝日放送 OCN大分ケーブルネットワーク 大分ケーブルテレコム

協力 一般財団法人大分県遺族会連合会および日本遺族会第5ブロック

入場無料

主催 昭和館 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

TEL 03-3222-2577 / FAX 03-3222-2575

URL: <https://www.showakan.go.jp/>

X: <https://twitter.com/showakankudan>

f: <https://www.facebook.com/showakankudan>



昭和館

(厚生労働省委託事業)

くらしにみる

昭和の時代 大分展

昭和館は、戦中・戦後に国民が経験した労苦を後世に伝えるため、昭和10年代から昭和30年代までの歴史的資料を収集、保存、展示する施設です。

実物資料を活用した展覧会を全国各地で開催してほしいという要望をうけて、当館は平成13年(2001)から巡回特別企画展を実施してきました。令和6年度は、大分県大分市において巡回特別企画展「くらしにみる昭和の時代 大分展」を開催する運びとなりました。

本展では戦争がもたらした苦難や昭和の人々のくらしぶりを、当時の大分の写真や実物資料を交えて紹介します。

内容構成

写真と資料でみる大分のくらし

- Ⅰ 戦時下のくらし
～日中戦争・太平洋戦争の時代～
- Ⅱ 戦後復興のあゆみ
～占領期から高度経済成長期の時代～



「別府温泉を訪れた米第19歩兵連隊の兵士」 昭和23年(1948)米国立公文書館提供

特別展示 麻生豊「銀座復興絵巻」

「銀座復興絵巻」は漫画家・麻生豊による作品で、空襲の被害を受けた銀座を舞台に、焼け跡の中で生活する人々の日常が克明に描かれています。

麻生豊は明治31年(1898)大分県宇佐郡(現・宇佐市)に生まれ、上京したのちに北沢楽天に師事、漫画記者として頭角を現します。大正12年(1923)から『報知新聞』で連載を開始した「ノンキナトウサン」が代表作となり、4コマ漫画の普及に大きく貢献しました。

さきの大戦において、麻生は陸軍報道班員としてジャワ島などに派遣されるも病気に罹り内地へ送還、そのまま終戦を迎えます。終戦時に銀座にアトリエを構えていた麻生は、「在りのままの変転を、この二十一年をスタートにして書き綴って見よう」との思いから「銀座復興絵巻」を描くことを思い立ちます。

今回紹介する3枚の作品には、昭和21年(1946)当時の銀座において、列を作って配給を待つ人々や、賑わう駅前広場の闇市やデモ行進などの様子が風刺的に表現されています。



麻生豊「銀座復興絵巻」昭和21年(1946)